



陽気だより

No81

2013.12.15

●ホームページからも「陽気だより」

最新号・バックナンバーをご覧ください

<http://yotokusha.com/>

図書出版 養徳社 〒632-0016 天理市川原城町 388 TEL 0743 (62) 4503 / FAX 0743 (63) 8077

養徳社

検索

昭和31年1月号から

『陽気』は、昭和24年4月の創刊、今年で64年を迎えます。過去の記事から、その歩みの一端を振り返っていきます。

陽気ぐらしに

向かって

—成人のあと三年千日の反省—

高橋道男

(昭和三十一年当時 本部長)

参議院議員

教組七十年祭へ三年千日のつとめを打ち出された時は、教内の誰もが、「よし来たッ！三年千日」と勇躍したに違いありません。私もその一人でした。

今日になって、この三年千日をどうしていたのかと、自分で自分をさがめずにいられません。あの時は、誰にも同じように三年千日の日数が与えられて、同じように出発した筈なのに……。自分もやるだけやったつもりではありませんが、あの人はあれまでにやっているのに、何となく自分の通ってきた道が充実していないような後悔に打たれるのです。

○ 年祭は成人の道しるべであると教えていただきます。そ

の道理はわかっていますが、その実はなかなか伴わないように思っています。

人というものは、心が親神様から肉体をお借りして、はじめて存在が与えられるのです。心も身体も相共に成長してこそ、釣り合いのとれた健康な人となるのであります。心は成長せずに身体だけ大きくなると、だいもんぢや(京こ

とばで頭でっかち)という風な頭でっかちができます。心の成人ということは、親の心をうけて、その心になることだ

と思うのですが、自分は頭でっかちになっていないだろうか、それとも、いつまでも子供のままで、親のスネかじりをしていけるのではあるまいかとそんな気がして、三年千日という日数だけが過ぎて、自分

○

心は出発点からヨチヨチと、やっと歩き出したぐらいに思われてならないのです。心の成人こそ我々の念願であります。しかし現実には、心よりも形の具象化を急いできたことになっていないでし

ようか。形は心に伴うものであり、心の表れともなるのですから、それも結構でありますが、やはり心が元にならないければなりません。その心は大丈夫なのでしょう。自分だけが心の成人におくれをとっているのだろうか。

○

おやさとかかたは、御守護と信者各位の御奮励とによつて、見事に偉容を整えてきました。みな喜んでいきます。感激しています。十年前には、今日の日を夢にも想えないほど幼かったのです。ありがたいことです。

しかし、本当に心の成人が進んでいるのなら、あのやかに毎日充滿するほどの道の子供が帰ってくるだけの景況が現われてこなければならぬと、私は思うのです。成人の心は、親となつて他の人を救ける心です。道の先達となつて道の子を生み育てる心です。

○

親里では、親の思いに叶うように、やかたを建てていただきました。それが七十年祭に間に合うように出来上がったことには、まことに嬉し

○ ことですが。しかし、繰り返すことにな

ります。我々子供の心が、その親里の目標に合うように成人していつてゐるかを、私はよく考えたいのです。これは私だけに言うべき言葉であるなら、私としては忍んでこれを聴き、鈍心に鞭打つて、もつとしっかりと、おくれっている部分を追いつきたいと思

○

幸いにして、心が成人し、それに匹敵する形を与えられたとしても、それで安臥(あんが)しているわけには参りません。ワラジのひもを解かないのは、三年千日の間だけではありません。理想の陽気生活の世界が出来るまで、我々は努力をつづけなければなりません。弱い心で考えると、これは厳しい道です。しかし明るい心で考えると、これは楽しみ

○

の道です。三年千日を根限り、つとめてこられた教内の皆様方に、こんな自分の心をさらけ出すことは恥ずかしい次第ですが、れども、かえりみて自らの反省といたし、一層の成人を親神様にお誓い申したい上から、あえて記した次第です。

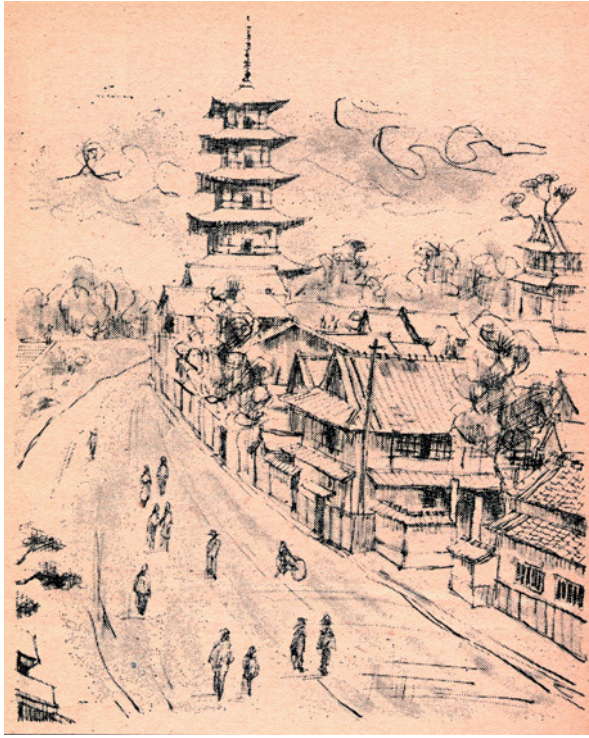
教祖ゆかりの地

—興福寺五重塔の下—

文・高野友治

絵・青山文治

奈良の市役所別館二階から五重の塔を眺めた風景である。昔、教祖は、奈良の監獄へ御苦労になったとき、この道を通り、五十二段の石段の右から坂道を人力車にてのぼられ、五重の塔の左側をまっすぐに進んで、西笹鉾町の監獄へ行き給うたと聞く。



また、教祖がお帰りのときには、人力車が百何十台と列をつくって、この五重の塔の下を天理へ向かったものかと想像すると、なつかしい道である。

昔の奈良の警察というのが、南寺林町にあったというから、それは今の市役所になっているのではないか。だから、この景色はまた、昔の奈良警察署から眺めた景色ということになる。教祖は、ここにも御苦労になっている。

月刊『陽気』連載小説「まほらま」

作家・出久根達郎作

特設サイト公開中!!

◎筆者出久根達郎氏のメッセージをはじめ、これまでのあらすじや立ち読みなど、『陽気』本誌と連動したコンテンツを続々配信中。

<http://mahorama.yotokusha.com/>
陽気 まほらま 検索



月刊『陽気』定価改定についてお願い

本誌は平成二十二年以来、出来るだけ安価でご愛読いただきたくと定価を据え置いてまいりましたが、諸原価の高騰により経営努力も限界に達しました。

加えて平成二十六年四月から消費税率が8%に引き上げられるため、明年五月号より定価二百二十円(税込)に改定させていただきます。

何卒、事情ご賢察の上、ご支援・ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

尚、平成二十六年三月三十一日までに、平成二十六年五月号以後の代金をお納めいただく場合は、改定前の定価二百円で、ご購入いただけます。



購読に関する問合せ先
☎0120-920-398
養徳社 業務部窓口

今の世の中で あなたは
どう考え 何ができるか
信心の核心を求めた名著

好評!

信心の鼓動

松宮 守著

B6判 216頁 定価 1,050円(税込) 送料200円
※ご注文は前払いとなりますので定価に送料を加算して郵便振替にてご注文下さい。

Facebook で最新情報をチェック! <https://www.facebook.com/yotokusha>

この「陽気だより」を各支部例会などの折、広く養徳社からのお知らせとしてご利用くださいますよう、お願い申し上げます。
<書籍・陽気のご購入方法について>前払いをお願いしております。お近くのゆうちょ銀行に備え付けの振込用紙をお使い頂き、[住所、氏名、電話番号、書名(陽気希望月号)、冊数]を明記の上(振替口座番号00990-3-17694番 加入者名 養徳社)へご送金ください。手数料はお客様負担となります。ご入金を確認後、速やかに商品を発送させていただきます。ご不明な点は養徳社までお問い合わせ下さい。フリーダイヤル0120-920-398 養徳社 業務部